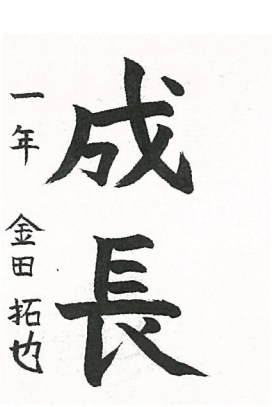
# あつまれ みんなの 力作



1年2組
金田　拓也くん

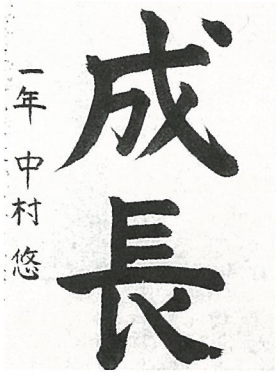
※生まれた時から比べると何倍も大きくなったと、文字を書きながら思いました。

1年4組
市原実可子さん

※止め、はらいに注意して、お手本をよく見ながら書きました。

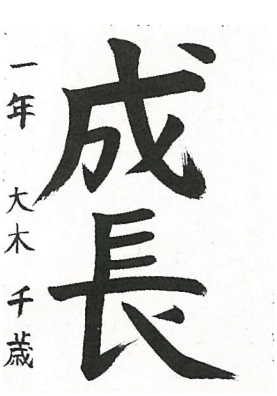
1年2組
中村　悠さん

※成長という字を書くのは苦手だったけれど、がんばってよかった。



3年1組
布施美菜子さん

※柿の木の位置に気をつけました。濃・淡・かすれを出すのが難しかったです。



1年4組
大木　千歳さん

※成長という字を書いて気をつけたところは、全体のバランスとはね、はらいです。

3年1組
椎名　峻之くん

※濃・淡・かすれを使い分けて、花のバランスを保つところが難しかったです。

## ひかり俳壇

初鰹飛べるがごとし空を切る　越川　義則（二又）

中七下五の措辞が活き、リズムも良い。生き生きとした初鰹が眼前に彷彿とする

再手術気づかふ夜々の遠蛙　越川せつ子（篠本）

再手術をされた人の身を案ずる作者。夜毎夜毎に合唱する遠蛙の音に心も癒される

初夏の雨少年兵の墓碑つつむ　大木　靜水（篠本）

国難に殉じた年少の兵達、いわゆる少年兵の墓碑を若葉雨が静かに降りそそいで居る叙情豊かな作品

球拾い蛙追ひかけ始めおり　土屋　義昭（虫生）

山谷に初夏の風あり始発来る　川島　孝夫（二又）

朝夕の冷気残して夏めきぬ　伊藤　定男（尾垂）

やうやくに田水張り終え初夏の風　大谷　武彦（木戸）

ボール追う少年野球に夕焼来る　川島　通則（二又）

短評　椎名しげる

評者吟　首夏病んで事の断片つながらず